

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

A中学校が、地域の一般社団法人、子育て支援施設、SSW、地域のコミュニティ協議会などが連携し、「校内カフェ」を開催した。この居場所(カフェ)では、生徒が放課後に過ごすことができ、地域の大人と気軽に話せてつながりを作ることのできる機会にもなっている。また、異学年の生徒との交流を通して人間関係を構築するきっかけともなっている。

また、生徒会主体の取組として、朝礼等で全校生徒にイベントの実施について周知し、イベントの企画、運営、出演を希望する生徒や実行委員を募集した。イベントの当日は有志の生徒が司会及び進行を務めた。参加を希望した生徒たちによる歌唱やダンス、演奏、ルービックキューブのパフォーマンスなどを披露した。生徒は、菓子等を飲食しながら人間関係を育むことができた。この取組は定期考査最終日に実施した。生徒は、考査が終了し、安堵した様子で大いに盛り上がった。欠席しがちであまり登校できていない生徒も友達に誘われて参加することができ、共に楽しい時間を過ごすことができた。



【取組2】(B中学校)

授業改善の取組として、校内研修のテーマを「誰一人取り残さない学習の推進」とし、デジタルを活用したこれからの学びの在り方について協議した。全教員が一人1時間の研究授業を行うために、学習指導案を作った上で授業を録画し、授業のポイントとなる取組をまとめた動画を互いに視聴した。特に、生徒が学習内容を理解して発展的に学ぶことのできる指導の工夫と成果について共有した。また、授業の課題についても話し合い、各教科、他教科間でも助言等を行った。

【取組3】(B中学校)

「不登校生徒にどう関わるか」をテーマにSCによる講義を行った。講義ではゴール(支援目標)をどこに設定するか、生徒を支援するときの心構え、アセスメントのポイント、保護者との信頼関係の構築、登校を促すことを控えたほうがよい場合、登校を促す場合に配慮すべきことなどについて話があった。教員はこれまでの対応を振り返り、今後、不登校生徒にどのように関わるべきかについて確認できた。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（C中学校）

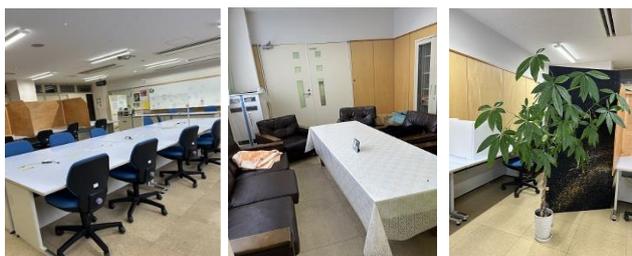
毎週、不登校対応巡回教員が巡回する日に校内委員会を設定し、管理職、S C、養護教諭、各学年の不登校担当教員が出席している。事前に会議の資料に情報を入力しておくことで、情報共有だけでなく、個別の支援の方向性や関係機関との連携の仕方などについても協議することができる。

アウトリーチによる支援（B中学校）

電話でなかなか連絡が取れない家庭には定期的に家庭訪問を行い、配布物を渡すなど支援が途切れないようにしている。また、必要に応じてS S Wと協力し、生徒の面会を行い、他の関係機関につなげるなど、外部の機関との連携の充実を図りながら支援を継続している。

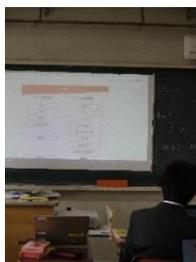
校内別室における支援（A中学校）

個別に学習を進められるようにパーティションで区切られたスペースと、休み時間等に生徒同士が交流等できるような仕切りのないオープンスペースの両方を設定し、用途によって使い分けている。また、ソファを置いてリラックスできるようにしたり、植物とパーティションで他の生徒の視線を気にせず過ごしたりできるよう工夫されており、個人に合った過ごし方ができるようになっている。



デジタル機器を活用した支援(D中学校)

登校が難しい生徒にはオンラインで授業を配信している。自宅で授業を受けることによって、いざ登校できるようになった時に学習に遅れが生じないようにするとともに、学校とのつながりをもてるように配慮している。



関係機関との連携（D中学校）

校内委員会が開かれる日にS S Wが参加している。情報共有をしながら、学校だけでは対応が難しくなっているケースについてはS S Wに関わってもらい、子育て支援施設につなげるなど、外部の関係機関と連携した取組を進めている。

成 果

不登校対応巡回教員が巡回することにより、各校の好事例を他校に紹介し、校内別室の環境整備や運用の仕方などを改善することができた。

課 題

不登校の未然防止や長期化に対する支援の充実については各学校で試行錯誤している。今後も好事例を参考に取組んでいく。